

卒業論文講評

小関 隆志

田中 実乃梨「函館観光における現状と課題解決への取り組み」

田中さんは地元・函館市の観光をテーマに取り上げました。北海道函館市は、以前から観光の町として高い人気を誇り、また最近では北海道新幹線の開業を間近に控え、観光客の増加が大いに期待されています。別の見方をすれば、観光産業の成否が、町の将来を占うことにもなり、観光産業関係者のみならず函館市全体の発展にとっても重要なテーマだと考えられます。

単に自分の故郷だからということではなく、函館市が民間のブランド調査で1位を獲得したという点を、調査対象選択の根拠として挙げているのは、合理的な説明であり好感が持てます。

また、高い評価や人気に気を緩めているわけではなく、外国人観光客への対応、冬季の観光の弱さなど、現在直面している課題に焦点を当て、その解決策を具体的に検討するという視点が優れています。

観光産業の活性化といっても、個々の企業の自助努力にのみ任されて良いものではなく、業界団体や自治体などの後方支援も欠かせません。田中さんは函館市役所や函館国際観光コンベンション協会に訪問してインタビューを行い、統計データなど貴重な内部資料を多くもらうことができました。こうした内部資料が論文の説得力を高めているのは言うまでもありません。

インタビューや統計資料のインパクトが強いこともあり、田中さん自身の分析や考察がもう少し詳しく展開されてもよかったのではという印象もありますが、著名な観光地を抱える自治体がどのような課題に向き合っているのかを示す良い事例研究となっているように思います。

それぞれの自治体の特殊性もある一方で、多くの観光地に共通した課題というのもおそらくあるでしょう。函館を事例とした今回の研究で得られた知見が、どの程度一般性を持つものなのか、今後検討してみることも価値があると考えられます。